

いちの やむこうやま いちの やたての  
流山市市野谷 向山遺跡(21)・市野谷立野遺跡(37)

- 事業名 新市街地地区  
所在地 流山市市野谷782-4の一部ほか(向山)・同780-8ほか(立野)  
調査期間 平成29年8月1日～平成29年8月31日(向山)  
平成29年9月1日～平成29年9月27日(立野)  
調査面積 1,318㎡(向山)・2,845㎡(立野)  
主な時代 縄文時代、近世  
主な遺構 近世野馬土手1条・野馬堀3条・シシ穴8基(向山3基・立野5基)  
主な遺物 縄文土器・石器、近世銭貨  
主な成果

今回の調査では、二つの遺跡にまたがる近世の野馬土手に関連する遺構が確認されました。遺跡の一带は、江戸時代に軍事用の兵馬、荷物運搬用の駄馬、田畑の農耕馬などを放牧するために幕府が設けた牧として知られています。江戸幕府は下総台地北西部に小金牧、中央部に佐倉牧を設置しますが、両遺跡から見つかった野馬土手・野馬堀は小金牧の一つの上野牧に属するものと思われます。野馬土手は、周囲の田畑を野馬が荒らさないように牧と村を分けるために設けられた土手です。

今回の調査地点はその牧の一部にあたる場所です。野馬土手は、わずかな高まりとして一部が残っていましたが、その多くは失われていました。しかし、その野馬土手に伴う3条の野馬堀が、土手の西側に位置していたことが明らかになりました。野馬土手に伴う堀は、土手の左右に1条、あるいは片側に1条のみが通常ですが、今回の調査で発見された堀は、重なり合うことなくわずかな間隔をあけて3条が並んでいました。3条が同時に使われていた可能性は低く、土手の修復が行われ、土手がわずかに移動するのに伴い、掘り直された結果であろうと考えられます。

3条の野馬堀はそれぞれに異なり、東側の野馬堀は浅めで、仕上がりはあまり丁寧ではありません。中央の野馬堀は深く、底は平らで、断面は箱形に近く、丁寧に仕上げられています。西側の野馬堀は浅めで、中にシシ穴と呼ばれる深さ2m～3mほどの穴がいくつも掘られています。



市野谷立野遺跡 3条の野馬堀 東から



市野谷立野遺跡 西側の野馬堀・シシ穴  
堆積した土の様相 南から



市野谷立野遺跡 西側の野馬堀  
重なったシン穴 南東から



参考写真  
流山市上新宿に存在した野馬土手と野馬堀の様相  
(「常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書Ⅴ」(財)千葉県文化財センター 1986年から)

土手